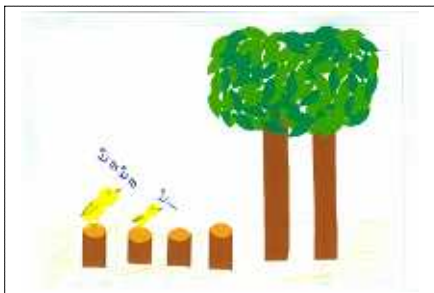


森の紙芝居部門 中学生の部 優秀賞 (JOMO カップ賞)

「森にやさしいパーティ」 作：ザ・ミッサ



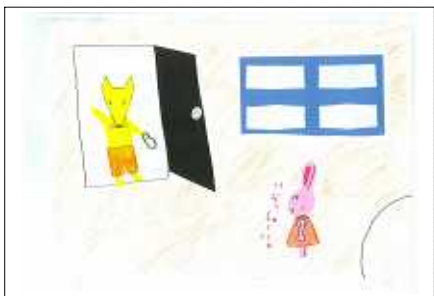
今、地球では、木がたくさん切られていて、森林がどんどん減っています。それは、人間が紙を無駄使いしたり木を使っているいろいろな物を作っているからです。
この話は、うさぎのピョンコとキツネのコンタと、サルのモンピーと、タヌキのボンちゃんが楽しく森にやさしいパーティーを開きます。



「ピョピョ」
「ピー」
アプタ森でかなしそうに鳥の親子、ピロとユピが鳴いています。
「お母さん、ぼくたちのおうちが切られちゃったよー。」
「ピロ、おちつきなさい。」
「でも・・・食べ物だってもうほとんどないのにー。」
「そうだねー。困ったわねー」



そんな中、うさぎのピョンコの家では、あるパーティーの準備をしていました。
「くりごはんに、野菜サラダに、きのこシチュー。」
楽しそうに準備をしながら、みんなを待っていました。
「さあ、あとはよそうだけ。」
すると・・・？



だれかがやってきました。
「コンコーン」 きつねのコンタです。
「おじゃましまーす。」
「いらっしゃい。コンタ君」
「まだ、みんな来てないのかー」
「そうなの。みんなおそいわねー。」
「わあ。すごい料理だ！おいしー。早く食べたいなー。
早くみんな来ないかなー。」



また、だれかがやってきました。
「ウキッキー。」 さるのモンピーです。
「おじゃまするキー。」
「いらっしゃいモンピー。」
「おー。モンピー。やっときたか。」
「おー。もう来てたのか。コンタ。久しぶりだキー。」
「あと一人ねー。」



とうとう最後の一人がやって来ました。「ポンポンポン」
たぬきのポンちゃんです。
「おじゃまするですー。」
「いらっしやい。ポンちゃん。」
「おー。とうとう最後の一人来たなー。」
「遅くなってごめんなさい。」
「じゃあ全員そろったところでパーティを始めましょうか。」



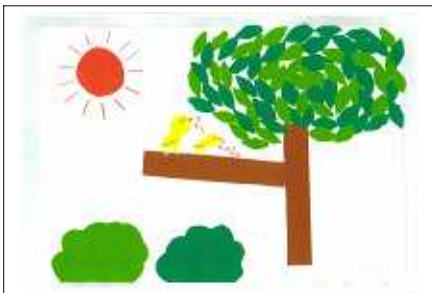
テーブルの上には、たくさんの料理が並んでいます。
「うわー。おいしそー。」
「早く食べようよー。」
「二人とも、今日は森を守るためになにか持ってきただろ？」
「あー。そうだった。」
「えー。なにになに？」



ジャジャーン。
二人は、なにかを取り出しました。
それは・・・？
「マイはしー！地球を守るために少しでも役立つと思って。」
「ぼくもー。ぼくは、コップとお皿だよ。紙コップや紙皿を使うより、何回でも使えるコップやお皿の方が木を守れるんだよ。」
「おはしもそうだよ。割りばしを使うよりマイはしを使った方が、環境にいいんだよ。」



「それじゃあ地球にやさしい、マイはしとコップとお皿を使っていただきまーす。」
「いただきまーす。」
「マイはしとかを使った方がおいしく感じるね。」
「これからは、みんなで少しずつ気をつけて森を守っていこう。」
「おー。」



そして、1年後・・・
「ピヨピヨ」
「ピー。」
みんなが、少しずつ森を守るために努力してきたため、木の減りがおそくなり、鳥の親子も大喜びです。
「なんだか最近、住みやすくなってきたわねー。」
「ごはんもいっぱいあるよー。」
その後も鳥たちは、幸せに暮らしました。